

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理概論 I (日商PC検定 文書作成3級)	
担当教員の実務経験	複数法人での新規企画への事務経験等	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報ネットワーク社会の急速な進展により、ワークスタイルが大きく変化する中、企業実務等における求められるビジネス文書の作成能力、およびネットワークの活用による事務能力等に関する基礎知識技術を習得する。	
授業の到達目標	日本商工会議所主催・日商PC検定 文書作成3級の取得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	初心者はタイピングのスピードをあげる。	
使用教科書・教材・参考書	FOM出版「よくわかるマスター 日商PC検定試験 文書作成3級 (Word2013対応)」 「よくわかるマスター 日商PC検定試験 知識科目公式問題集」	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	1. 検定試験概要・必要データのダウンロード	1 コマ
	2. 文書の有用性・ビジネス文書の基本	1 コマ
	3. ビジネス文書の文章表現・誤解を招かない文章表現	1 コマ
	4. 文章表現の応用 (箇条書き、記号符号、表)	1 コマ
	5. 電子メールの基本と文書管理の基本	1 コマ
	6. [演習]文章の入力 (インデントの設定、タブの挿入、下線の設定、名前を付けて保存)	1 コマ
	7. [演習]表のあるビジネス文書 (列幅の変更、行・列の挿入、罫線の削除、セルの塗りつぶし)	1 コマ
	8. [演習]票のあるビジネス文書 (罫線の種類の変更、計算式の入力)	1 コマ
	9. [演習]図形のあるビジネス文書 (各丸四角形の作成、矢印の作成、テキストボックスの作成)	1 コマ
	10. [演習]第1回模擬問題	2 コマ
	11. [演習]第2回模擬問題	2 コマ
	12. [演習]第3回模擬問題	2 コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	日本語表現	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	IT技術の進歩に伴い、パソコン等の利用による記録物管理等が行われるものの、基礎的基本的な表現技法等を行うことを基に、日本語表現を体系的に理解する。	
授業の到達目標	介護職員の業務に必要な書式等にあわせ「書く・話す・伝える」基礎的知識を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行うとともに、課題の作成を行う	
使用教科書・教材・参考書	石塚修他著「日本語表現&コミュニケーション」実教出版	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 自己紹介（構造）		1コマ
2. 敬語・連絡メモ		1コマ
3. 介護保険制度で行われる記録物		1コマ
4. 漢字の用例、言い回し例		1コマ
5. 書いた文章の見直し、改まった表現		1コマ
6. 手紙文の基礎、メールでの留意点		1コマ
7. 説明の構造		1コマ
8. 資料の読み取り（表、図、グラフの情報）		1コマ
9. わかりやすく伝える		1コマ
10. 介護報酬請求の流れ		1コマ
12. レポートの書き方		1コマ
13. 履歴書の構造		1コマ
14. 社会福祉で使われる文章表現		1コマ
15. まとめ		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（人間の理解）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観がわかる。また、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 人間の理解（人間の多面的理解）	1コマ
	2. 人間の尊厳と個人の尊厳	1コマ
	3. 人権尊重	1コマ
	4. 自立の概念	1コマ
	5. 自立と権利擁護	1コマ
	6. 権利擁護の歴史的経緯	1コマ
	7. 権利侵害の現状と背景	1コマ
	8. 権利擁護、尊厳の保持に関する現状（諸規定）	1コマ
	9. 権利擁護、尊厳の保持に関する現状（制度政策）	1コマ
	10. 介護における尊厳の保持（職業倫理）	1コマ
	11. 対象者を理解する視座	1コマ
	12. 介護実践におけるチームマネジメントの意義	1コマ
	13. ケアを展開するためのチームマネジメント	1コマ
	14. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	1コマ
	15. 組織の目標達成のためのチームマネジメント	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（社会の理解Ⅰ）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる。 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 社会と生活のしくみ	1コマ	
2. 社会・組織の機能と役割	1コマ	
3. 地域・地域社会	1コマ	
4. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策	1コマ	
5. 地域共生社会と地域包括ケア	1コマ	
6. 社会保障の基本的な考え方	1コマ	
7. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ	
8. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ	
9. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ	
10. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ	
11. 高齢者保健福祉の概要	1コマ	
12. 介護保険制度①	1コマ	
13. 介護保険制度②	1コマ	
14. 介護保険制度③	1コマ	
15. 介護保険制度④	1コマ	
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（社会の理解Ⅱ）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「人間の尊厳と自立」「社会の理解Ⅰ」「社会の理解Ⅱ」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 障害の概念・我が国における障害者の法的定義と障害者の概数	1コマ	
2. 障害者保健福祉の動向	1コマ	
3. 障害者保健福祉に関連する法体系	1コマ	
4. 障害者総合支援制度①	1コマ	
5. 障害者総合支援制度②	1コマ	
6. 障害者総合支援制度③	1コマ	
7. 個人の権利を守る制度・施策①	1コマ	
8. 個人の権利を守る制度・施策②	1コマ	
9. 個人の権利を守る制度・施策③	1コマ	
10. 保健医療に関する制度・施策①	1コマ	
11. 保健医療に関する制度・施策②	1コマ	
12. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①	1コマ	
13. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②	1コマ	
14. 地域生活を支援する制度・施策①	1コマ	
15. 地域生活を支援する制度・施策②	1コマ	
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護の基本）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ ・ 1 / 16 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護福祉とは	①介護の成り立ち	1コマ
2.	〃	1コマ
3. 介護福祉とは	②介護の概念の変遷	1コマ
4.	〃	1コマ
5. 介護福祉とは	③介護福祉の基本理念	1コマ
6. 介護福祉士の役割と機能	①介護福祉士の活動の場と役割	1コマ
7. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷		1コマ
8. 介護福祉士を支える団体		1コマ
9. 介護福祉士の倫理		1コマ
10. 日本介護福祉士会の倫理綱領		1コマ
11. 自立に向けた介護福祉のあり方	①自立支援の考え方	1コマ
12.	〃 ②ICFの考え方	1コマ
13.	〃 ③自立支援とリハビリテーション	1コマ
14.	〃 ③自立支援と介護予防	1コマ
15. まとめ		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護の基本Ⅱ）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ ・ 1 / 16 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
1.	介護福祉を必要とする人の理解 ①生活の理解	1コマ
2.	〃 ②介護福祉を必要とするひとたちの暮らし	1コマ
3.	〃 ③「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	1コマ
4.	〃 ④生活のしづらさの理解とその支援	1コマ
5.	生活を支えるサービスとは（フォーマルサービス・インフォーマルサービス）	1コマ
6.	生活を支える地域連携	1コマ
7.	介護における安全の確保・リスクマネジメント	1コマ
8.	感染症対策	1コマ
9.	多職種連携・協働の必要性と求められる基本的な能力	1コマ
10.	保健・医療・福祉職の役割と機能	1コマ
11.	多職種連携・協働の実際	1コマ
12.	介護従事者の健康管理の意義と目的	1コマ
13.	介護従事者のこころの健康管理	1コマ
14.	介護従事者の身体の健康管理	1コマ
15.	介護従事者の労働環境の整備	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	コミュニケーション技術	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15コマ	・ 1単位
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケアの基本的知識を深める。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第5巻「コミュニケーション技術」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護におけるコミュニケーションとコミュニケーションの対象		1
2. 援助関係とコミュニケーション		1
3. コミュニケーションの基本技術 ①コミュニケーション態度に関する基本技術		1
4. コミュニケーションの基本技術 ②目的別のコミュニケーション技術		1
5. コミュニケーションの基本技術 ③集団におけるコミュニケーション技術		1
6. コミュニケーション障害への対応の基本		1
7. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		1
8. 家族とのコミュニケーション		1
9. 家族関係と介護ストレスへの対応		1
10. 介護におけるチームのコミュニケーション		1
11. 報告・連絡・相談の技術		1
12. 記録の技術		1
13. 会議・議事進行・説明の技術		1
14. 事例検討に関する技術		1
15. 情報の活用と管理のための技術		1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（生活支援技術Ⅰ）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ、第7巻 生活支援技術Ⅱ」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 生活支援の基本的な考え方		1コマ
2. 住まいの役割と機能		1コマ
3. 快適で安全な生活環境		1コマ
4. 自立に向けた移動の介護とは		1コマ
5. 自立に向けた移動・移乗の介護		4コマ
6. 自立した家事とは		1コマ
7. 自立に向けた家事の介護		2コマ
8. 自立した身じたくとは		1コマ
9. 自立した身じたくの介護		3コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（生活支援技術Ⅱ）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ、第7巻 生活支援技術Ⅱ」	
授業上の注意点	試験の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 食事の意義と目的	1コマ
	2. 自立に向けた食事の介護	2コマ
	3. 自立した入浴・清潔保持とは	1コマ
	4. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	3コマ
	5. 自立した排泄とは	1コマ
	6. 自立に向けた排泄の介護	3コマ
	7. 休息・睡眠とは	1コマ
	8. 休息・睡眠の介護	1コマ
	9. 人生の最終段階の意義と介護の役割	1コマ
	10. 人生の最終段階における介護	1コマ
	テスト	
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護過程Ⅰ）	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護過程の展開の意義・目的を理解し、そのプロセスについて理解できる。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
1.	介護過程とは	1コマ
2.	生活支援における介護過程の必要性	1コマ
3.	介護過程のプロセスの理解（全体像）	1コマ
4.	基本的な情報とその必要性	1コマ
5.	基本的な情報収集の方法と留意点	1コマ
6.	ICFと生活支援	1コマ
7.	アセスメント（情報収集）	1コマ
8.	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	1コマ
9.	課題の明確化	1コマ
10.	介護計画の立案	1コマ
11.	介護の実施	1コマ
12.	評価	1コマ
13.	介護過程の展開事例を用いたアセスメントの理解①	1コマ
14.	” ②	1コマ
15.	” ③	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護過程Ⅱ）	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 利用者の生活と介護過程の展開	1コマ	
2. 事例1の展開	3コマ	
3. 事例2の展開	3コマ	
4. 事例3の展開	3コマ	
5. 事例4の展開	3コマ	
6. まとめ	2コマ	
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（こころとからだのしくみ・認知症の理解）	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	40 / 240 コマ	・ 3 / 16 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中のこころとからだのしくみ領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「こころとからだのしくみ」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1.からだの成り立ちの理解	1コマ	
2.生命活動を調節するしくみ	1コマ	
3.外界の変化に対応し、調節・修復・再生するしくみ	1コマ	
4.ヒトの一生のリズム	1コマ	
5.脳のつくりと働きの理解	1コマ	
6.こころと脳のつながり	1コマ	
7.人間の行動を引き起こすこころのしくみー動機付けのしくみー	1コマ	
8.人間の行動を引き起こすこころのしくみー感情のしくみー	1コマ	
9.自分を守るこころのしくみ	1コマ	
10.社会性を引き出すこころのしくみ	1コマ	
11.身じたくの持つ意味	1コマ	
12.顔面の構造と機能	1コマ	
13.感覚器で外界をとらえるしくみ	1コマ	
14.口腔の構造と機能	1コマ	
15.爪の構造と機能	1コマ	
16.毛髪 of 構造と機能	1コマ	
17.洗顔に関連したこころとからだのしくみ	1コマ	
18.口腔清潔に関連したこころとからだのしくみ	1コマ	

19.更衣に関連したところとからだのしくみ	1コマ
20.爪の清潔に関連したところとからだのしくみ	1コマ
21.毛髪に関連したところとからだのしくみ	1コマ
22.視覚機能の低下・障害の原因	1コマ

23.視覚機能・運動機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響	1コマ
24.口腔機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響	1コマ
25.立位・座位・体位変換	1コマ
26.食べることに関する機能の低下・障害の原因	1コマ
27.窒息の予防と窒息時の対処	1コマ
28.誤嚥・脱水を予防するための日常生活での留意点	1コマ
29.入浴・清潔保持に関するリラックス・爽快感を感じるしくみ	1コマ
30.皮膚の汚れが及ぼす影響とその対処	1コマ
31.陰部の清潔と尿路感染の防止	1コマ
32.睡眠の意味、機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響（不眠）	1コマ
33.終末期から危篤・死亡時のからだの理解	1コマ
34.疼痛緩和のために行われる医療の実際と介護の連携	1コマ
35.認知症ケアの理念と視点	1コマ
36.認知症者の体験の理解	1コマ
37.若年性認知症者の生活の理解	1コマ
38.地域におけるサポート体制	1コマ
39.認知症対策と介護保険制度、その他の認知症対策	1コマ
40.まとめ	1コマ
合計	40コマ
授業単位数	3

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	こころとからだのしくみ（課題学習）	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解を深める。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第11巻「こころとからだのしくみ」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. こころのしくみを理解する(課題学習)	2
	2. からだのしくみを理解する(課題学習)	4
	3. 移動に関連したこころとからだのしくみ(課題学習)	4
	4. 食事に関連したこころとからだのしくみ(課題学習)	4
	5. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(課題学習)	4
	6. 排泄に関連したこころとからだのしくみ(課題学習)	4
	7. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(課題学習)	4
	8. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ(課題学習)	4
	合計	30
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	発達と老化の理解	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要		
授業の到達目標	発達の見点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基本的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	試験の合格（60%）、小テスト（10%）、出席・授業態度（30%）を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第12巻「発達と老化の理解」 視聴覚教材	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達の考え方	1
	2. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達の原則・法則	1
	3. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達に影響する要因	1
	4. 発達理論	1
	5. 発達段階と発達課題	1
	6. 身体的機能と成長と発達	1
	7. 心理的機能の発達	1
	8. 社会的機能の発達	1
	9. 老年期の特徴と発達課題	1
	10. 老年期にともなう身体的な変化と生活への影響	1
	11. 老年期にともなう心理的な変化と生活への影響	1
	12. 老年期にともなう社会的な変化と生活への影響	1
	13. 高齢者の症状・疾患の特徴	1
	14. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	1
	15. 保険医療職との連携	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症の理解	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症について理解し、認知症ケアの基本的知識が深まる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第13巻「認知症の理解」 視聴覚教材	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 認知症の基礎的理解	2
	2. 認知症の中核症状と生活障害	1
	3. 認知症の行動・心理症状（BPSD）	1
	4. 認知症の診断と重症度	1
	5. 認知症の治療と予防	1
	6. 認知症を取り巻く状況	1
	7. 認知症ケアの理念と視点	1
	8. 認知症当事者の視点からの理解	1
	9. 認知症の人とのコミュニケーション	1
	10. 認知症の人へのケアとアプローチ	1
	11. 認知症ケアの環境づくり	1
	12. 家族への支援	1
	13. 介護福祉職への支援	1
	14. 認知症の人の地域生活支援	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（障害の理解）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ ・ 1 / 16 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士養成講座テキスト 第14巻 障害の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 障害の概念と障害者福祉の基本理念	1コマ
	2. 障害者福祉に関連する制度	1コマ
	3. 障害者福祉制度と介護保険制度	1コマ
	4. 運動機能障害の理解	1コマ
	5. 視覚障害の理解	1コマ
	6. 聴覚・言語障害の理解	1コマ
	7. 重複障害の理解	1コマ
	8. 内部障害の理解	1コマ
	9. 重症心身障害の理解	1コマ
	10. 知的障害の理解	1コマ
	11. 精神障害の理解	1コマ
	12. 高次脳機能障害の理解	1コマ
	13. 発達障害の理解	1コマ
	14. 地域のサポート体制	1コマ
	15. 家族への支援	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（医療的ケアⅠ）（課題学習）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の医療的ケア領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「医療的ケア」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できることとし、合格不合格にて評価する。）	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア」	
授業上の注意点	提出課題の合格が取得条件	
授業計画（内容）		コマ数
1. 医療的ケアとは		1コマ
2. 医行為について		1コマ
3. 清潔保持と感染予防		1コマ
4. 療養環境の清潔、消毒法		1コマ
5. 健康状態の把握		1コマ
6. 喀痰吸引とは		1コマ
7. 人工呼吸器と喀痰吸引		1コマ
8. 子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応		1コマ
9. 吸引の技術と留意点		1コマ
10. 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認と急変時の対応		1コマ
11. 経管栄養とは		1コマ
12. 注入する栄養剤に関する知識		1コマ
13. 経管栄養実施上の留意点		1コマ
14. 子どもの経管栄養について、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応		1コマ
15. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認と急変時の対応		2コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（医療的ケアⅡ）	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 240 コマ ・ 1 / 16 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の医療的ケア領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「医療的ケア」に関する課題・問題を解ける。実際に手順に則って「医療的ケア」演習ができる。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できることとし、合格不合格にて評価する。）	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア」	
授業上の注意点	試験の合格が取得条件	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 医行為と医療的ケア	1コマ
	2. 安全な療養生活	1コマ
	3. 清潔保持と感染予防	1コマ
	4. 健康状態の把握	1コマ
	5. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	1コマ
	6. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1コマ
	7. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	1コマ
	8. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	1コマ
	9. 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引の実施方法	1コマ
	10. 気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施方法	1コマ
	11. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実施方法	1コマ
	12. 経鼻経管	1コマ
	13. 経鼻経管	1コマ
	14. 救急蘇生法	1コマ
	15. AED使用の手順	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（医療的ケアⅢ）	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	20 / 240 コマ	・ 1 / 16 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の医療的ケア領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「医療的ケア」に関する課題・問題を解ける。実際に手順に則って「医療的ケア」演習ができる。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格 90%、授業態度 10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成 24 年 3 月 30 日付 社援発 0330 第 43 号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できることとし、合格不合格にて評価する。）	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第 5 巻 医療的ケア」	
授業上の注意点	実技試験の合格が取得条件	
授業計画（内容）		コマ数
1. 救急蘇生法		2 コマ
2. 喀痰吸引のケア実施		8 コマ
3. テスト		1 コマ
4. 経管栄養のケア実施		8 コマ
5. テスト		1 コマ
合計		20 コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	レクリエーション指導論（レクリエーション・インストラクター養成講習）	
実務経験	秋田県レクリエーション協会講師	
対象学生	総合福祉学科・心理福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	20 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	レクリエーション理論や支援法を、さまざまなレクリエーション活動を通して学ぶ。最終的にはプログラムを立案し、実践（検定）・評価を行う。	
授業の到達目標	支援者に必要な知識や演出方法を理解し、レクリエーション素材の有効的な活用方法やプログラムの組立て方、実技実践方法を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	1クールごとに資料作成	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1. レク概論～楽しさと心の元気づくりの理論Ⅰ	1	
2. レク理論Ⅲ～レクインストラクターの役割～	1	
3. レク理論Ⅱ～アイスブレイキング理論編～	1	
4. レク理論Ⅰ～ホスピタリティ実技～	1	
5. レク活動習得法Ⅴ～ゲーム・ダンス編～	1	
6. レク活動支援法Ⅲ ～高齢者編～	1	
7. 楽しさと心の元気づくりの理論Ⅱ～地域とレク～	1	
8. レク支援法Ⅷ ～ネイチャーゲーム編～	1	
9. レク活動習得法Ⅲ ～太極拳編～	1	
10. レク活動習得法Ⅲ ～太極拳編～	1	
11. レク活動習得法Ⅵ～指導案と評価編～	1	
12. レクプログラム立案法Ⅰ～集団プログラム編～	1	
13. レクプログラム立案法Ⅱ～地域事業編～	1	
14. モデルプログラム体験Ⅰ～キャンプ編～	1	
15. モデルプログラム体験Ⅰ～クラフト編～	1	
16. モデルプログラム体験Ⅱ～クラフト編～	1	
17. 安全管理の必要性について	1	
18. レク活動習得法Ⅴ～レクダンス～	1	
19. レク支援実践法Ⅰ～元祖！ソング～	1	
20. 1レク支援実践法Ⅵ～グループ指導演習③～	1	
合計		20
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	基礎医学	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1 年生	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	章ごとに働きと疾病を理解する	
授業の到達目標	実務において必要な医学知識の基礎を理解する	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	医学入門	
授業上の注意点	暗記のみに留まらずきちんと理解すること	
授業計画（内容）		コマ数
人間の身体の全体像を知る		2
第1章 細胞・組織について		2
第2章 血液・リンパ液・免疫について		2
第3章 循環器系の働きと疾病について		2
第4章 呼吸器系の働きと疾病について		2
第5章 骨格・筋系の働きと疾病について		2
第6章 消化器系の働きと疾病について		2
期末テスト・解説		2
第7章 泌尿器系の働きと疾病について		2
第8章 生殖器系の働きと疾病について		2
第9章 内分泌系の働きと疾病について		2
第10章 神経系の働きと疾病について		2
第11章 感覚器系の働きと疾病について		2
第12章 感染症について		2
期末テスト・解説		2
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	栄養学	
担当教員の実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	生活構造の変化に応じて食生活も多様となるが、求められる機能と現状を理解する。	
授業の到達目標	健康な食生活に必要な知識技術の理解を進める。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	前回のプリント課題の復習	
使用教科書・教材・参考書	中村丁次監修「栄養の基本がわかる図解辞典」成美堂出版	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 健康寿命について	秋田県民の食生活指針	1コマ
2. 個々人の食事について	体格指数の計算 社会の変動と食生活 国内自給率	1コマ
3. 栄養、栄養素について	食事摂取基準について	1コマ
4. 食欲のしくみ		1コマ
5. 消化のしくみ	吸収のしくみ 排泄のしくみ	1コマ
6. バランス献立の基本型	3回食が体に良いわけ 調理について	1コマ
7. ライフサイクルと栄養	①妊娠中の栄養と食事・乳幼児の栄養と食事	1コマ
8. "	②小学生の栄養と食事・中高校生の栄養と食事	1コマ
9. "	③成人の栄養と食事・高齢者の栄養と食事	1コマ
10. 食物アレルギーについて		1コマ
11. 食品表示、食中毒、食の安全について		
12. 症状別栄養	① 肥満、糖尿病、がん、動脈硬化 他	1コマ
13. 症状別栄養	② 脂質異常症、高血圧、脳卒中、心疾患 他	1コマ
14. 症状別栄養	③ 肝機能低下、消化器系・腎機能低下 他	1コマ
15. 災害時の食対応について	まとめ	1コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	健康予防管理専門士資格講座	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	20 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	健康予防管理専門士試験に向けて学習を進めるとともに、未然に病気を防ぐ環境づくり・体力づくり・生活づくりを学びます。	
授業の到達目標	健康の保持と増進を進める具体的な方法や技術を身につける	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「健康予防管理専門士試験 公式テキスト」一般社団法人総合ケア推進協議会	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
健康予防管理・指導の基礎知識 ① 健康の定義、維持・増進・予防 ② メタボリックシンドロームの定義・診断基準・対策 ③ 生活習慣病と生活習慣・食事 ④ 疾病構造の変化 ⑤ ライフステージと健康（成人期・壮年期・老年期）		3
健康づくりの基礎知識 ① 栄養と栄養素 ② 喫煙と健康 ③ アルコールと健康 ④ 生活習慣病と運動		2
健康づくりの実践 ① 食事バランスガイド ② 日本人の食事摂取基準2015 ③ 食品標準成分表 ④ 糖尿病食事療法のための食品交換表 ⑤ 嚥下障害の基礎知識と食事 ⑥ 高齢者の身体的特徴と介護予防 ⑦ たんぱく質・エネルギー低栄養状態の基礎知識および栄養と予防 ⑧ 保健機能食品 ⑨ サプリメントの基礎知識 ⑩ 薬剤と食品成分との相互関係		6
運動による健康づくり ① 日本人の健康と国の健康増進対策 ② 健康づくりの運動とは		2
生活習慣病と予防の知識 ① 肥満症の基礎知識および治療と予防 ② 死亡肝の基礎知識および治療と予防 ③ 高血圧症		7

④ 脂質異常症	
⑤ 糖尿病	
⑥ 慢性腎臓病 (CKD)	
⑦ 動脈硬化	
⑧ がん (悪性新生物)	
⑨ 骨粗鬆症	
⑩ 高尿酸血症・痛風	
⑪ 生活習慣病	
合計	20
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	総合実践 I	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科 1 年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	総合的な学習によって、充実した学生生活を送ること。	
授業の到達目標	総合的な学習によって、充実した学生生活を送ることができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
（1）球技大会		4
（2）学園祭		4
（3）その他学校行事など		7
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	太鼓	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	和太鼓に触れ身体表現することで豊かな感性を涵養する。	
授業の到達目標	協働して表現することで、チームで活動・表現する喜びを体験できる。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 生活支援の基本的な考え方		1コマ
2. 住まいの役割と機能		1コマ
3. 快適で安全な生活環境		1コマ
4. 自立に向けた移動の介護とは		1コマ
5. 自立に向けた移動・移乗の介護		4コマ
6. 自立した家事とは		1コマ
7. 自立に向けた家事の介護		2コマ
8. 自立した身じたくとは		1コマ
9. 自立した身じたくの介護		3コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	形態別障害論（手話）		
担当教員の実務経験	聴覚障害者協会		
対象学生	総合福祉学科・心理学科 1年生		
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位		
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []		
授業の概要	聴覚障害について理解を深め、コミュニケーション手段としての手話について理解を深める。		
授業の到達目標	1. 聴覚障害や手話について、正しい理解をする。 2. 聴覚障害者への対応方法（コミュニケーション手段等）を身につける。 3. 対人コミュニケーションの大切さを理解する。		
成績評価方法と基準	筆記・実技試験の合格		
準備学習・時間外学習	授業の復習をし確実に身につけるように取り組んでください。		
使用教科書・教材・参考書	講師作成のレジメを参照		
授業上の注意点	授業に集中できる環境を作ってください。		
授業計画（内容）			
			コマ数
1. 講義① 聴覚障害について	実技①	身体表現（手話での挨拶Ⅰ）	1コマ
2. 講義② 手話言語とは	実技②	身体表現（手話での挨拶Ⅱ）	1コマ
3. 講義③ 聴覚障害者のハンディキャップとは	実技③	自己紹介（挨拶・名前）	1コマ
4. 講義④ 聴覚障害者の社会活動とその成果	実技④	自己紹介（数字・家族構成）	1コマ
5. 講義⑤ 聴覚障害者への対応術	実技⑤	趣味を話そう	1コマ
6. 実技⑥ 誕生日、星座、欲しいプレゼント	実技⑦	好きな季節・好きな理由	1コマ
7. 実技⑧ 得意なスポーツ、苦手なもの	実技⑨	時間の表し方	1コマ
8. 実技⑩ 私の旅行したいところ	実技⑪	日曜日を話します	1コマ
9. 実技⑫ 総合演習Ⅰ（表情の表現）	実技⑬	グループ発表	1コマ
10. 実技⑭ 総合演習Ⅱ（手話で歌う）	実技⑮	グループ発表	1コマ
11. テスト			5コマ
合計			15コマ
授業単位数			1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護総合演習・介護実習	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	40 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	1. 会議実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 2. 地域における様々な場において、対象者の生活理解する学習とする。	
授業の到達目標	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
1.	介護総合演習の目的	1コマ
2.	介護実習の意義と目的	1コマ
3.	介護実習の種類	1コマ
4.	介護実習前の学習の意義と目的	1コマ
5.	介護実習中の態度	1コマ
6.	実習先の特徴	1コマ
7.	実習先での学び、実習記録の書き方	1コマ
8.	実習① デイサービス	8コマ
9.	実習② 訪問介護	8コマ
10.	実習③ 障害者支援施設	8コマ
11.	実習④ 入所施設	8コマ
12.	まとめ	1コマ

合計 40コマ
授業単位数 2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ボランティア論	
対象学生	総合福祉学科1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	阪神淡路大震災以来、ボランティアに対する価値観が多様化する中、自らが積極的にボランティアをする意義等を見出し、社会福祉施設等でのボランティアを実際に体験する。	
授業の到達目標	体験を通じたボランティアに対する考え方をまとめられる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理をしっかりとし、ボランティア体験等に参加できるようにする。	
使用教科書・教材・参考書	授業内で配布されるコピー等を利用	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 市民レベルでの社会福祉の動向		1 コマ
2. 社会福祉の歴史		1 コマ
3. ボランティアの種類・動向		1 コマ
4. ボランティアが求められる役割		2 コマ
5. 福祉職員の研修内容—ボランティアへの接し方のスーパービジョン—		1 コマ
6. ボランティア準備		2 コマ
7. ボランティア体験		6 コマ
8. まとめ・礼状の書き方		1 コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	運動実技 I	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護・介護予防としてデイケア、デイサービス、介護老人保健施設、フィットネスジムなどでのトレーニング方法他、とその理論を理解できる。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. エクササイズを通して高齢者の健康保持・増進・体力の向上について理解する。 2. 運動・スポーツを通して集団で運動することの楽しさと意義を体験する。 	
成績評価方法と基準	出席15%、安全に演習への指示ができる80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	宮下智「レッドコード・グループエクササイズ」三輪書店 NHK学園「スポーツリーダー養成講座」	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		
	1. 高齢期の現状（身体的、精神的、社会的特徴）とトレーニングの留意・注意点	1コマ
	2. 健康増進に関する多様な方法と指導計画	1コマ
	3. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(座位でのグループエクササイズ)	1コマ
	4. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(立位でのグループエクササイズ)	1コマ
	5. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(健康増進グループエクササイズ)	1コマ
	6. 介護場面で実際に行われているパワーリハビリ	1コマ
	7. 体育実技（バスケット、テニス、マット運動、トランポリン、ゴルフ）	9コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座	
対象学生	総合福祉学科1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職に向けた自己理解、職業指導、事業所研究、就職面接対策等を通して、福祉関係事業所へのマッチング及び就職対策を行う。	
授業の到達目標	自己覚知を基に、自ら就職活動を主体的におこなえる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各就職指導対策の実施ができる準備を行う（就活用用品等を揃える）	
使用教科書・教材・参考書	各授業中にプリントを配布し指示	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1.就職ガイダンス	1 コマ
	2.福祉職者として必要となる自己理解	2 コマ
	3.福祉専門職者の役割及び連携	1 コマ
	4.身近な福祉関係事業所・施設の把握	1 コマ
	5.身近な福祉関係事業所・施設の役割理解	2 コマ
	6.就職面接の実際	3 コマ
	7.福祉関係職者に必要となる倫理観・価値観	1 コマ
	8.履歴書、お礼状の書き方	1 コマ
	9.面接対策応答検討	1 コマ
	10.就職面接会参加	1 コマ
	11.ふりかえり	1 コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護事務概論	
対象学生	総合福祉学科 介護・医療事務コース1年生	
授業時間数・単位数	30コマ・2単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護保険制度の仕組み、利用者負担などについて理解を深め、介護報酬の算定方法及び介護レセプトの書き方について学習する。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険資料を基に介護レセプトの記入ができる。 ・ 介護報酬請求事務検定試験の合格を目指す。 	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業範囲を読み返し、理解を深めるよう努力すること。	
使用教科書・教材・参考書	ソラスト 介護事務講座（テキスト1～4）	
授業上の注意点	必要個所に適宜マーカー等で印を付ける。	
授業計画（内容）		コマ数
介護保険制度の仕組み		2
支給限度額		2
給付管理業務		1
請求と支払		2
利用者負担の徴収		3
他制度との関係		2
介護従事者の基本知識		1
介護報酬の算定・居宅サービスの算定		3
介護報酬の算定・支援サービスの算定・施設サービスの算定		3
介護報酬の算定・地域密着サービスの算定		1
介護レセプトの書き方・居宅サービスの介護レセプト・支援サービスの介護レセプト		5
介護レセプトの書き方・施設サービスの介護レセプト・請求書の書き方		5
	合計	30
	授業単位数	2